

私の一文字「敬」

副代表幹事
秋池 玲子

ボストン コンサルティング グループ
マネージング・ディレクター&シニア・パートナー



常に相手の良いところを見つける

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月は、副代表幹事の秋池玲子さんにご登場いただきました。

岡西 漢字には神聖な意味を持って作られているものが数多くあります。秋池さんが選ばれた「敬」もその一つです。神様にいけにえを捧げるという意味です。

秋池 右側のつくりは画数が少なくバランスを取るのが難しいと思いましたが、こんなにすてきに書いていただいて「さすがだな」と感動してしまいました。

岡西 ありがとうございます。画数が少ない分、秋池さんがお持ちの女性のしなやかさ、力強く手を差し伸べているイメージで書かせていただきました。

秋池 私は、外部の人間として依頼された組織に何うことが多い仕事をしています。事業再生にあたる時やコンサルタントとしてもそうです。新卒で入社したキリンビールでは製造部門の企画が仕事でしたので、本社からしばしば工場へ行き、そこで長い時間を過ごしました。

こうした中で大切にしてきたことは、自分で思い込んだ答えを相手に押し付けるのではなく、まず対象の組織や個人のお話を伺って、どういうことを考えて、何を大事にされておられるかを学び、敬意を払うことです。組織風土に理解を深めることも大切です。相手に合ったやり方で改革を進めればやろうという気持ちになってくださるので、成果につながるのではないかと思います。

岡西 お相手の良いところを見つけるという姿勢は、社会に出てすぐに身に付くことではないと思いますが、秋池さんはどのように身に付けられたのですか。

秋池 子どものころから、人にはそれぞれ素晴らしいところがある、とずっと思っていました。子ども時代から読書がとても好きだったので、人や事象にはさまざまな面がある、多様な視点で物事を捉えようと考えていたのかもしれませんが。組織や企業も同様で、素晴らしいところが必ずあると考えています。たとえその時期にうまくいっていないところがあったとしても、組織には経験や知恵や人材、それらを培う組織風土があります。そこに敬意を払って仕事をするのがとても大切だと思って取り組んできました。

岡西 私は「親しき仲にも礼儀あり」という言葉、すごく好きなんです。どんなに仲良くなっても相手に敬意を持ってこそ、心と心が通じ合うのかなと思います。

秋池 そうですね。合わないことを無理に接ぎ木してもすぐに枯れてしまいます。組織や人という土壌に合ったものを接ぎ木することで生き生きと育つのではないかしら。

岡西 経済同友会では今年度はどのようなご活動をされていきたいと考えていらっしゃいますか。

秋池 私は経済同友会発足70周年を機に作られたプロジェクト「経済同友会20を実践推進するPT」を担当しています。設立期とは社会が大きく変化した中で、経済同友会のあり方を再度考えてみようということで始まりました。活動は二つ。経済同友会の組織の仕組みを見直すことが一つ。も

う一つは外に向かって経済同友会を理解していただくための取り組みです。昨年度は学生さんたちとの協同作業を行いました。試行実験を繰り返しながらノウハウと成果を事務局に蓄積し、私たちだけでなく会員の皆さまに活用していただけるようにしました。今年も続けていきたいと思っています。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

